

(保育学科)

科目・担当教員	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
<b>発達心理学Ⅱ</b> (菊野雄一郎)	「発達心理学Ⅰ」で学んだ基礎的知識を踏まえて、保育所・幼稚園で、日々成長を遂げる子どもの発達について、保育専門職として正しく理解することを目標として、発達援助・発達臨床の基本を学ぶ。子どもの発達から見た保育所および幼稚園の保育実践の意義と、専門職の実施する発達援助の実務と役割を理解する。
<b>子どもの保健ⅠB</b> (前林 英貴)	子どもの一般的な健康状態や様々な疾患・障害について知識を深める。また、子どもにみられる様々な疾患を取り上げ、子どもの病気に特徴的な症状と保育者としての対応について学ぶ。保育所や幼稚園などの施設のみならず、家庭や地域で起こりやすい事故の特徴や対応、予防方法についても学ぶ。子どもの健康を守るために必要な基礎的知識を習得するとともに、病気や障害、生命倫理についても理解を深め、母子保健・地域保健活動を通して、保育士の役割について考えていく。
<b>幼児理解と教育相談</b> (菊野雄一郎) (曾田 裕子)	幼児理解の基盤となる発達心理学、臨床発達心理学等の理論を学修し、幼稚園教諭の専門性としての幼児理解のあり方を、行動科学的に学ぶ。保育現場での臨床的な対象理解の具体的な技法として、行動観察法、質問紙法、検査法、面接のあり方、を理解し、教育相談のためのカウンセリングマインドの基礎を学ぶ。さらに、幼児理解の事例検討を通して教育的支援のあり方を学修する。また、特別支援教育、幼小接続における幼児理解のあり方についても検討する。
<b>保育内容 人間関係</b> (渡辺 一弘)	本科目は、保育原理で学んだ保育者になるための最低限の知識、理論やスタンスを基に、保育内容の5領域における、「人間関係」領域を、講義と現場での具体例を通して、「自己肯定感」を育む背景となる人間関係について学んでいく。具体的には、先ず保育の基本と人との関わりや、乳幼児期における人との関わり、遊びの中で育つ人との関わりを学びながら、保育の実践における人との関わりを、様々な具体例を検討しながら理解する。そしてその上で、園、家庭、地域の生活と人との関わりや、「人間関係」領域をめぐる諸問題についても理解を深める。
<b>体育Ⅰ</b> (梶谷 朱美)	子どもの発達特性をふまえ、子どもの身体表現、及び運動遊びや体育的指導に必要な基礎的理論と基礎的技術・技能を身につける。
<b>発達評価検査法</b> (山下由紀恵)	この演習は、発達心理学ⅠⅡで学んだ知識にもとづいて、乳幼児の行動を観察し評価する視点と、基礎的な発達検査法を身につけることを目標としている。保育の現場で使用される機会の多い評価法と検査方法を習得し、発達の遅れ、偏りなどの個人差の、根拠に基づく理解を目指す。
<b>社会的養護内容</b> (藤原 映久)	社会的養護の実際は、児童福祉施設に勤務する職員や里親が提供する具体的な援助方法に支えられている。本科目では、愛着、子どもとのコミュニケーション、暴力の防止などをキーワードとしながら、社会的養護の現場における児童の安心・安全の確保を重要な視点とする。そして、その視点に立ったうえで、社会的養護を实践する上で必要とされるケアワーク、ソーシャルワークの知識・技術について学び、その理解と認識を深めることを目的とする。また、児童福祉施設職員または里親からの話を聞く機会を設けることにより、学びを深める。

(総合文化学科)

科目・担当教員	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
<b>文学と文化Ⅰ</b> <b>(日本近代文学A)</b> (山根 繁樹)	近代小説を題材に、自ら問題を発見しながら作品を読み解く方法と、その読解を説得的に他者に伝える力とを養うことを目標とする。言葉の連なりが生み出す意味作用に対する洞察力や、物語の構造を把握する分析力を磨く。それぞれの読解をもとに発表やディスカッションを行うことで、文学作品について自らの考えを的確に表現したり、他者の伝えようとしている内容を正確に把握したりする力を培う。また、日本近代文学の小説を中心とした歴史を概説し、個々の作品が文学史上に占める位置を明らかにする。それらによって、文学に対する学生の主体的なかかわりを醸成する。
<b>文学と文化Ⅳ</b> <b>(英米文学A)</b> (藤吉 知美)	19世紀から20世紀初頭の代表的なアメリカ文学作品を取り上げます。作品を理解するには、作家の経歴や、作品が生まれた歴史的、文化的背景を知ることが重要です。授業では、作品全体を取り上げるのではなく、エッセンスとなる部分を読みますが、興味のある作家や作品を見つけたら、翻訳でもいいので、作品全体を読んでください。また、読んだ内容に関して、自分なりの意見を持つことで、文学作品を読む際に何に注目すればいいのかわかり、読解の幅が広がります。この授業を通して、アメリカ作家とその作品に親しんでください。
<b>英米の社会と文化</b> (Dustin Kidd)	本授業は、アメリカ合衆国の国自体や生活のあらゆる側面について学ぶことを目的とする。学生は新しい語彙を学び、そして学んだ事柄について議論もする。アメリカに対して持っている固定概念と現実を比較する機会もある。最終回には、学習の集大成として、アメリカの州について発表をする。
<b>英米の言語と文化Ⅱ</b> (Dustin Kidd) (小玉 容子)	この授業では、いわゆる語学としての英語学習のみではなく、英語学習を通して言葉と文化の関係にも思いを致し、言葉と文化の間にある相互的な影響や作用について考えながら、英語の基礎的な四技能を、特に「話す」「書く」の発信型技能に焦点をおきながら身につける。初回授業で1年生共通のプレイスメントテストを行い、2回目の授業からA、Bの2クラスに分けて各担当者で授業を実施する。
<b>妖怪学</b> (山村 桃子) (小泉 凡)	異界は洋の東西をとわず存在する。人間の想像力が生み出した異界に属する超自然的なものの存在(妖怪)に多角的にアプローチすることから、人間と異界との関わりの歴史を考察する。なお、この講義は2人の教員で行う。
<b>アメリカ研究</b> (Dustin Kidd)	It is the goal of this class to introduce students to the United States and various facets of the country and the lifestyle there. Students will learn new vocabulary and engage in discussions about the ideas covered in class. Students' preconceptions will be compared to the reality of the USA as well. For a final project, students will do a presentation on one of the states in the US.
<b>観光まちづくり学</b> (竹田 茉耶)	「観光まちづくり」の概念や、その概念が登場した背景(まちづくりと観光が結びつくプロセス)について学び、観光まちづくりの現状や特徴、課題について議論することを目的とする。まずは、まちづくりと観光、それぞれの展開を理解した上で、両者が結びつくプロセスについて理解する。その上で、具体的な事例を参照しながら、「観光まちづくり」といわれている取り組みの現状や特徴を学び、これらの課題について議論する。